# Ⅲ．池袋駅周辺地域のまちづくりの将来像

## １．池袋駅周辺地域のまちづくりの視点

まちづくりは都市開発事業の完了がゴールではなく、それらが運用され、まちが持続的に成長していくことが重要です。そのため、現況の問題点やトレンドだけにとらわれず、長期的な視点を持って大きく揺らがない「将来像」を 3 つのまちづくりの視点から定めました。

● 上位計画・関連計画

●都市づくりビジョンの池袋副都心の再生方針（豊島区）
・首都機能の一翼を担う商業、業務、芸術、文化、交流、娯楽、情報発信など多様な都市機能の高度な集積により、国内外の人々から選ばれる国際性の高い拠点を形成

●東京文化ビジョン（東京都）
・東京の更なる成長の柱として芸術・文化を位置づける

●国際アート・カルチャー都市構想
・多様性を生かしたまちづくり
・出会いが生まれる劇場空間
・世界とつながり人々が集まるまち

■ 都市再生の必要性

■人口減少・少子高齢化社会の到来
■アジア等新興国の台頭、国際競争力強化

■特定都市再生緊急整備地域の指定
・文化・芸術等の育成・創造などの機能の充実・強化とともに、魅力ある商業・業務機能を集積し、国際アート・カルチャー都市を形成

◆ 池袋のポテンシャル

◆多様な魅力・文化を生み出してきた池袋
・アトリエ村、トキワ荘など若いクリエーターの揺籃の場としての歴史
・サブカルチャーなどクールジャパンのショーケース

◆アジアを中心とした外国人居住者の集積

◆商業・生活機能の集積するターミナル
・東京北西部・埼玉方面の大きな人口を後背圏とするターミナル

■国際競争力を強化し、池袋が日本、東京の中で果たす役割、池袋での都市再生の意義とは？

・日本、東京は、世界・アジアの成長と活力を取り込み、新たな芽を育てていくことが重要
・池袋は、丸の内・大手町のような国際ビジネス拠点とは異なる新たな国際性を有する拠点を目指す
・歴史的なりたち、現状の機能集積、文化の多様性、都市構造などから、日本経済・産業の新たな「創造と成長」の強みとなる「芸術・文化」を育て・発展させる拠点としての優位性がある

・池袋らしさを生かし、持続・発展させるためには、多様な人や文化を受け入れる「交流」「発信」「成長」の場が重要
**⇒人々が触れ合い、議論し、競い合い、成長の芽を育てていく都市機能、都市空間が必要**

■ 池袋駅周辺地域のまちづくりの視点

**アート・カルチャーの魅力で、世界中から人を呼び寄せ、新文化・新産業を育む**

**都市空間を人間優先へ、誰もが主役になれる舞台に**

**先人が培ってきた文化資源を生かしながら、新たなまちづくりへ**

## アート･カルチャーの魅力で、世界中から人を呼び寄せ、新文化･新産業を育む

### ●池袋の魅力を発信

・東京屈指の商業地として発展してきた池袋は、単なる消費の場ではなく、芸術・文化の発信・交流の場として機能してきた。
・生活と文化、商業・業務機能が一体的に形成されたまちからは時代とともに変化を遂げながら、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、多種多様な芸術・文化が生まれてきた。
・東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの開催により国際的な注目が集まる。

**◆池袋の魅力（池袋ブランド）の積極的な発信により世界から人を呼び込む**

### ●世界中の人が集まるまち

・東京芸術劇場をはじめとする多様な劇場、広場や道路・公園などの活用により、リアルな表現・発表の場を用意することで、世界中からプレイヤーとオーディエンスを集める。

**◆世界中から多様な価値観を持つ人たちが集まり活動することで、新たな価値や魅力が創発※1する**

（西口まちかど回遊美術館）

（区役所まるごとミュージアム）
■多様な文化の発信

■アニメ・コスプレなどサブカルチャーの魅力を積極的に発信

## 都市空間を人間優先へ、誰もが主役になれる舞台に

### ●創造と生活が一体となるまち

・「単に綺麗に整ったまち」ではなく、創造と生活の場が一体となった「懐の深さ」が多様な文化を育ててきた。
・すべてが高密度・高容積ではない、地域の個性やコミュニティを大切にした池袋らしい「界隈」を生かしていく。
・車優先、効率優先となってきた都市空間を、人間優先に取り戻していくことで、すべての人が安全と安心を実感しながら過ごせるまち。

**◆人が主役の空間整備（まちなかのいたるところをサードプレイス※2へ）**
**◆安全安心を実感しながら、住民も来街者も普段着で楽しめるヒューマンスケールのまち**

# 世界中から人を惹きつける 国際アート・カルチャー都市のメインステージ

界隈を歩き、にぎわいと四季の彩りを感じるまち・池袋

## 先人が培ってきた文化資源を生かしながら、新たなまちづくりへ

### ●新しい価値を育てる（インキュベーション※3）まち

・昭和初期の池袋周辺では、アトリエ村が形成され多くの芸術家が暮らし創作活動を行ってきた。戦後はデビュー間もない漫画家たちがトキワ荘などで寝起きし、互いに切磋琢磨しながら新しい文化を作り上げてきた。
・新しい価値や文化は、若い人たちや芸術家のたまごなど、後ろ盾が乏しいが意欲のある人たちから生まれてくる。

**◆池袋の歴史と多様な価値を受け止める受容性を生かしアーティストデビューや起業を目指す人たちのスタートアップの場を提供する**

■市街地の縁辺部で形成されたアトリエ村（復元模型）

■既存ストックを活用したリノベーションまちづくり

### ●新しい価値を、新文化・新産業へと育てるまち

・芸術・文化を基盤とした新たな価値や魅力を、人と人、人と企業、企業と企業が、交流・連携することで、新文化、新産業へと育て、新たな活力としてまちに取り込んでいく。

**◆新文化・新産業を育て、まちに取り込むことで池袋の魅力をさらに高めていく**

■女性企業家の支援

※1:「創発」とは、個々の要素の単純な総和を越え相互作用が全体に影響を与えて、新たな成果をもたらすこと。
※2:「サードプレイス」とは、家でも職場でもない第三の居場所のこと。自由な表現活動の場ともなりえる。
※3:「インキュベーション」とは、新しい文化や、新しいビジネスを支援・育成し発展させること。